

一般 生ごみは資源、燃やさないで！

織部 光男（無所属）



掛川市、菊川市の可燃ごみは、掛川市満水にある環境資源ギャラリで燃やしています。今日の質問は生ごみに絞ります。菊川市は年間約2,268トン市民の生ごみを燃している。給食センター、菊川病院、おおぞら認定こども園の生ごみは、鈴与商事菊川バイオガス事業所で発酵メタンガス発電をして、最後は肥料化し資源として再利用しています。国も県も生ごみ問題は地方自治体に任せています。豊橋市の環境部のバイオマス利用センターでは、生ごみ・下水処理場の汚泥・し尿の3種類をメタン菌で発酵させ、発電、1年間で1,890世帯の電気を作り、残りは炭化燃料として利用しています。循環社会そのものです。まさに資源活用、無駄なく循環社会の実現化です。岡山東真庭市の太田昇市長は「今を生きる一人の人間の義務として、また自治体行政を預かる責任者として、環境の保全や改善を重視した環境行政を進めたい」という強い意識をもっていきます。」と発言。

Q 市長は太田昇市長のような意識を持っていますか。

A 地球温暖化対策やごみの削減などの環境政策は非常に重要であると考えています。生ごみにつきましては、発生の抑制、排出の抑制、適正な処理を講じながら、持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。

Q 市民の出す生ごみから発電や肥料化する事業計画はありますか。

A 現時点で具体的な事業計画はありませんが、他市の視察や調査を行い、課題を整理している段階です。



一般 コミュニティ・スクールこれから

倉部 光世（市民ネット）



学校と地域住民等が力を合わせ学校運営に取り組むことが可能となる地域とともにある学校への転換を図ることで地域の課題解決にもつながる。

Q 自治会、コミュニティ協議会、PTA等へ十分説明はされているか、ディレクターや担当課が説明を行う必要性は。

A まだ理解が進んでいるとは考えていない。今後は地域支援課とも協力しディレクターを中心に説明会を計画し理解を進める。

Q 学校支援ボランティア減少理由は。

A 共働き、定年延長、ボランティアの高齢化等全体的に働き方が変わっている社会環境の変化が影響している。

Q 学校と地域をつなぐディレクターは各学舎一人で担えるか。

A 補助役を各小学校に配置する必要性は感じている。

Q 少子高齢化に伴い、地域を担う人材不足が問題となっている。放課後子ども教室、青少年健全育成、スクールガード等、不登校対応や部活動も含める必要があるが、将来像をどのように描いているか。

A 安全部門、部活動など、将来的にはコミュニティ協議会と連携していくことが必要。必要に応じて担当部署と協議し、さらなる活動の活性化のためより情報共有を図っていく。

他に「栄養教諭・養護教諭・学校事務職員の働き方について」質問しました。

